

警察のカメラがあなたを監視している

警視庁が秘密裏に「顔照合システム」の試験運用を実施

いま警視庁は都内で、「三次元顔形状データベース自動照合システム」（顔照合システム）の試験運用を秘密裏に実施しています【「NO！監視」ニュース 第31号参照】。東京新聞もこのことを一面トップで報道しました（左の記事参照）。

警視庁は、駅などに設置されている民間のカメラが撮影した顔画像データをリアルタイムで警視庁に送信させ、これを警視庁が作成した顔画像データ

東京新聞 2012年 8月 14日付



ベースと自動照合しています。しかし、警視庁は、この民間のカメラの設置場所も、警視庁のデータベースに誰をどのような基準で何人登録しているのかも、一切秘密にしているのです。

愛宕警察署（東京都・港区）が管内全域にカメラ設置計画を推進

警視庁愛宕警察署が主導して、管内全域の街頭に官民の監視カメラを設置する計画を進めており、今春に50台設置し、将来は計300台にしようとしています。

東京新聞 2012年 6月 30日付



警視庁は、2012年1月の東京都公安委員会の会議で、「管内のどのエリアで事件が発生しても、容疑者や容疑車両がいずれかの防犯カメラで捉えられるような戦略的、組織的な設置促進を行い、いわゆる『死角のないまち』の実現を図る」と述べています。愛宕警察署は、この警視庁の『「死角のないまち』の実現』という施策にもとづいて、計画を進めているのです。

さらに神奈川県警は、身長と服装の画像検索と録音の機能をもった監視カメラシステムまで運用しています（5頁の「高性能街頭防犯カメラシステム」参照）。

警察庁は、全国に網の目のように張りめぐらせている監視カメラ網に、警察が試験運用している「三次元顔形状データベース自動照合システム」（顔照合システム）をつなげることを狙っているのです。（誰が・いつ・どこを・どのように通行しているのか）—— 私たちの日常生活や行動が、警察の監視カメラ網によって監視され丸裸にされるのを許すわけにはいきません。